

# 山折哲雄さん

(宗教学者)

## タテ軸の人間関係の大切さを思う

戦後、民主化の名のもとに急速に進んだ人間関係の「平等化」。だが、その中で失われた大事なものがあることに、多くの人が気づき始めている。なかでも、何かを後代に伝えようと思つとき、その喪失感は切実だ。伝統の継承と教育について、いまこそ「タテ軸の人間関係」が必要だと説く山折さんに話を聞いた。

### 気づき始めた「大事なもの」

私はここ数年、いまの平等主義の人間関係よりも、親子や師弟や先輩後輩など、タテ軸の人間関係のほうが本当は大事ではないかと繰り返し主張してきました。『教えること、裏切られること 師弟関係の本質』（講談社現代新書）とか『いま、ここを育むとは 本当の豊かさを求めて』（小学館101新書）などの著書でも語ってきたんだけど、あんまり評判がよくないみたいなんだ。団塊世代が権力を握っている時代では、

人気が得られない主張なのかもしれないね（笑）。  
どうしてこの問題について語ってきたかというと、ひとつには伝統の継承の問題があります。団塊世代は、これ、むしろ積極的に棄ててきた。前の世代の価値観など、伝統の否定に熱心だった。その結果、世の中や人間のありよう、生き方などに関して、それを後代に伝えなければならぬことに気づいてはいても、いつの間にか伝えられなくなっている。

あれは大事なものだったんじゃないか、失つてはいけないものだったんじゃないかと、いま、あらためて多くの人が気づき始めている。自分たちがそんなこと

を思う年になって、戸惑っている。喪失感を感じているといつてもいい。これは、親子関係をはじめとした、人間関係のタテ軸・垂直軸を失ってしまったためではないかと思うんです。タテ軸・垂直軸って、結局は時間の問題、継承の問題ですからね。それにいま、やつと気がついたということじゃないでしょうか。

タテ軸・垂直軸の人間関係というと、どうも暴力とか強制とか、あるいはシゴキとかイジメといったマイ

ナスのイメージがつきまとう。だけど、本当にマイナスだけなのか。確かにタテ軸の人間関係には旧弊ながらみとからみついたマイナス面があります。ボス支配が起こりやすかったりもするしね。だけど、だからといって、全否定していいわけではない。ものごとにはすべて両面がある。ヨコ軸、水平軸の平等主義にだってマイナス効果はいくらでもあるわけですから。

私が考えるタテ軸・垂直軸の理想的な形は、あくまで個と個の関係です。群れと群れとのタテ軸・垂直軸の関係は、ボス支配をはじめいろいろな歪みを生んでしまう。だけど、個と個のあいだでは起きない。

個とはつまり「ひとり」ってことです。個人と個人がタテ軸・垂直軸でしっかりと向き合ったとき、伝統や技術や思想が継承されるのではないかと。ヨコ軸・水平軸では継承は難しいんじゃないか。だからこそ、いま、タテ軸・垂直軸の人間関係にもう一度注目すべきなのではないかと思えますね。

### ドストエフスキーを読む女子高生

タテ軸・垂直軸の人間関係の大切さに、私はずっと



●やまおり・てつお 一九三二年生まれ、岩手県出身。国立歴史民俗博物館教授や白鳳女子短大学長、国際日本文化研究センター所長などを歴任。著書に『近代日本人の宗教意識』『フッダは、なせ子を捨てたか』『空海の企て』『日本人と「死の準備」』『わたしが生きて語らる』などがある。